

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
あめんぼ		2026年 4月 30日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		お子さんの利用人数に対して部屋が広すぎる場合、しきりや目隠しを用いて調整している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		お子さんの自発的な行動を促すため、過剰な声掛けや過干渉にならないように距離間を適切に保つよう心掛けている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		情報伝達をしやすいように、事務所から発達支援室が見えるつくりになっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		定時での換気や消毒などきれいに保つようになっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		静養室や相談室、広めの廊下も使用できる。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		ちいさなことからコツコツと毎日のミーティングで振り返りと明日の目標を決めている。	週間や月単位での目標を決める取り組みも行うといいか。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		個別療育後の時間に評価アンケートの感想などを聴取した。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		策定会議を全職員で行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		専門職と連携を行い作成をしている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		実際に支援に入る職員と密に会議を行い、計画立案をしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		作成後に支援内容を把握してもらうために読み込むように声掛けがある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		遠城寺式乳幼児分析的発達検査等を用いて発達の確認を行う機会を設けている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		それぞれの子どもや家庭の背景を踏まえて内容を立案している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		全職員が参加しての会議やミーティングがある。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		毎日のミーティングの中で次のプログラムの改善や立案を行っている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			専門職と検討したことを記録として残し、参照しやすい工夫ができるとよい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		児発管、個別担当者、専門職と意見交換ができるようにセッティングしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		協力医療機関を設けている。	今後保育所等訪問支援の開始も検討していきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		保護者様のご希望があれば電話での連携などができることを日々共有している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	75%	25%		今後就学児童が出てくるため、対応していく。引き継ぎ資料等を作成する予定である。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	100%		野田市のセンターではないが、外部機関との連携を図っている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	75%	25%	児童館を利用することや地域の催しに参加するなどしている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	75%	25%		今後行っていきたい。
保	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		子どもの立場に立った計画を立案することを一番としている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			

保 護 者 へ の 説 明 等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	75%	25%		今後交流の機会を設けたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%			更新頻度が安定していないため、安定を図りたい。 更新を増やしたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		社用の携帯を社員が持ち、そちらで利用者の情報交換や連絡を行うことで、個人情報の漏洩防止にもつながっていると思う。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		相談室の利用や、お迎え時間をずらすなど個別対応している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%		地域の催しに出店するなどしている。	
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		定期的な確認の機会や更新の機会を設けている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		避難訓練を毎月行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%			その日のアレルギーや健康状態の状況を確認するための掲示物の活用をうながす。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			保護者にわかる形で日々周知していく工夫が必要。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%			